

御座石神社

御座石神社は、田沢湖の龍神であるたつこ姫乃神を祀る神社です。かつて、たつこという名の若く美しい女性がいましたが、彼女は永遠の美しさを求めた結果、龍になってしまいました。

神社はこの龍神を祀っていますが、神社の名前は秋田藩の第二代目藩主佐竹義隆（1609–1672）が 1650 年にこの地域を訪れたことに由来します。佐竹は神社の前の湖岸沿いに広がる岩の上で休みました。この大きく平たい岩（石）は「ござ（goza）」というイグサで編まれた敷物に似ています。

この神社は、佐竹義隆が田沢湖を遊覧したことを記念して 1911 年 10 月 17 日に三之丞家によって建立されました。御座石の上に立つ朱塗りの鳥居によって容易に判別できます。

付近には、七種類（マツ、スギ、サクラ、エンジュ、ハンノキ、ナシ、エゴノキ）が一つの幹に生えている七色木（Seven-Colored Tree）があります。

また、湯頭の霊泉（Miraculous Spring of Katagashira）というたつこが永遠の美貌を求めて枯れるまで水を飲みほした泉と、鏡石（mirror rock）もあります。伝説によると、この石はかつて鏡のように磨かれており、たつこがそこに美しい姿を映しました。

神社の敷地内にはたつこの像もあります。湖の西端にある有名な金色の像とは異なり、この像のたつこの下半身は龍になっています。